

「祭司メルキゼデク」

2020年12月09日

また、サレムの王メルキゼデクがパンとぶどう酒を持って来た。彼はいと高き神の祭司であった。彼はアブラムを祝福していった。「天と地の造り主、いと高き神に／アブラムは祝福されますように。敵をあなたの手に渡された／いと高き神はたたえられますように。」そこでアブラムはすべてのものの十分の一を彼に贈った。(創世記14章18節～20節)

アブラムは、エラムの王ケドルラオメルと彼に味方する4人の王たちの軍勢に夜討ちをかけて、勝利し、甥のロト一家と全ての財産と人々を取り戻した。アブラムは、訓練されたとは言え、従者318人の私兵で、4人の王たちの軍勢を打ち破ったのである。

アブラムは凱旋して、ソドムに帰って来た。ソドムの王は、シャベ(王)の谷へ出迎えにやって来た。敗北したソドムの王は、反撃して勝利したアブラムに感謝と敬意を込めて迎え、人々も、捕らわれた人たちと財産が戻って来たので、大歓喜して迎え入れた。アブラムの凱旋行進は、ソドムの町を揺り動かした。

この時、メルキゼデクという不思議な人物が突如、現れている。聖書は、メルキゼデクと彼の振る舞いについて、「サレムの王メルキゼデクがパンとぶどう酒を持って来た。彼はいと高き神の祭司であった。彼はアブラムを祝福していった。『天と地の造り主、いと高き神に／アブラムは祝福されますように。敵をあなたの手に渡された／いと高き神はたたえられますように』」と書いている。「サレム」とはエルサレムで、その王がパンとぶどう酒を持って来た。「王」は、神の意思に従って、地を治める人である。また、彼はいと高き神の祭司であった。「祭司」は、人を神に執り成し、赦しを得て生きられるように導く人である。メルキゼデクは王であり、祭司であった。彼は、アブラムが天地を創造した神に祝福されるように、敵をアブラムの手に渡された神が称えられるようにと、二つのことを祈っている。メルキゼデクの祝福の祈りを受け、「アブラムはすべてのものの十分の一を彼に贈った。」アブラムは、神に対するかのように、メルキゼデクに献げ物をしている。

詩編110編4節bでは、「あなたはメルキゼデクに連なる／とこしえの祭司」と、神がダビデの主を永遠の祭司と位置づけられたと記している。ヘブライ書7章1節～3節では、下記のように書いている。「このメルキゼデクはサレムの王であり、いと高き神の祭司でしたが、王たちを打ち破って帰って来たアブラムを出迎えて祝福しました。アブラムは、メルキゼデクにすべてのものの十分の一を分け与えました。メルキゼデクという名の意味は、第一に『義の王』、次に『サレムの王』、つまり『平和の王』です。彼には父もなく、母もなく、系図もなく、また、生涯の初めもなく、命の終わりもなく、神の子に似た者であって、永遠の祭司です。」ヘブライ書は、主イエスは永遠の大祭司メルキゼデクに等しい祭司であると解き明かしている。凱旋したアブラムに、突然現れたメルキゼデクがどんな人物なのかは判然としない。イスラエル人はメルキゼデクを「神の人」と理解しているようで、そのメルキゼデクからアブラムは神の祝福を受けたのである。

ソドムの王はアブラムに、「人は私に返し、財産はあなたがお取りください」と、アブラムの働きに敬意を表したが、アブラムは神にかけて誓い、私を富ませたのはソドムの王だと言われたくないと一切の戦利品を受け取らなかった。ただし、若者たちが食べたものと出陣した人々の分は別で、また、同盟を組んで戦いを共にしたマムレたちには彼らの分け前を取らせてくださいと依頼した。アブラムは財産に対して、全く清廉であった。